

算数教育 実技・理論 研修会 終了報告

テーマ	「自立的に学び続ける子の育成」 ～数学的な見方・考え方を働かせた「個別最適な学び」を通して～
日時	令和7年8月21日(木) 14:00～15:30
会場	当別町立とうべつ学園
講師	瀧ヶ平 悠史 氏(札幌市立石山緑小学校 教諭)
参加者	80名
研修会の様子	今年度は、札幌市立石山緑小学校教諭兼、北海道教育大学札幌校非常勤講師の瀧ヶ平悠史氏を講師に招き、当別町立とうべつ学園を会場として実技理論研修会を開催することができました。 瀧ヶ平氏は冒頭で「自立的に学び続ける子はゴールの姿である」という共通認識をもって講演会を聞いてほしいと参加者に伝えていました。 そして、「個別最適な学びは、ある程度自立的に学び続けられるようになった子どもの練習の場」であり、「児童生徒の学びが孤立してはいけない」と述べていました。また、そのためには、「児童生徒が数学的な見方・考え方働かせられるようになっていくことが求められ、必要であれば個別最適な学びと協働的な学びを往還しながら、数学的な見方・考え方を働かせているか確認しなければ力はずかない」とも述べていました。 つまり、協働的な学びの中で数学的な見方を顕在化させ、顕在化させた数学的な見方が使えるかを考える練習を積み、個別学習を進めていく必要があるのではないのでしょうか。 参加した教職員からは、「授業づくりのヒントになった」「誤答に寄り添ったり、理解が一番遅い子の立場をとったりしながら働かせた見方・考え方を児童に表現させたい」「子どもの『わかった！』という瞬間を大切にしたい」という声等が多く寄せられました。 今回の講演会を通して、私たちは改めて、子どもたちが未来に向かって自立的に学び続ける姿勢を育むことの重要性を確認できたように感じます。 今後は、講演で得た知見を日々の授業改善につなげ、石狩管内全体で「自立的に学び続ける子の育成」を推進していけるよう努めて参ります。 お忙しい中、ご講演いただいた瀧ヶ平氏、授業会場を提供していただいた当別町立とうべつ学園の皆様、そして遠方よりご参加いただいた多くの皆様に感謝を申し上げ、終了報告とさせていただきます。 (石教研算数部会副部長 紺野 丈)